

---

令和2年度 第1回午前

桐蔭学園 中等教育学校 学力検査問題

国 語

令和2年2月1日 施行

---

注意事項

1. 試験開始の合図<sup>あいず</sup>があるまで、この冊子<sup>きつし</sup>の中を見てはいけません。
2. 机の上には、えんぴつ・シャープペンシル・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生<sup>あがひ</sup>どうしの貸し借り<sup>かひかり</sup>もできません。また、机の中には何も入れてはいけません。
3. けいたい電話は、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子<sup>きつし</sup>の印刷<sup>いんさつ</sup>が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、えんぴつなどを落したり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子<sup>きつし</sup>のあいているところは自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 記述問題において、小学校で習わない漢字はひらがなで書いてもかまいません。
7. 問題は19ページまであります。
8. 問題冊子<sup>きつし</sup>は持ち帰ってください。

一 次の①～⑩の文中の——線部のカタカナを漢字に直し、⑨・⑩の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 近くの緑地でサンサクを楽しむ。
- ② 屋根のジョセツはとても大変な仕事だ。
- ③ 自分たちの企画きかくをセンデンする。
- ④ 彼女の努力かのじよにはケイフクする。
- ⑤ 八両ヘンセイの電車が通過した。
- ⑥ テイデンの原因を急ぎ調査する。
- ⑦ これはキボの大きな計画らしい。
- ⑧ 新しい機械のソウサを説明する。
- ⑨ 警察が遺留品いりうひんを調べている。
- ⑩ 本番に向けて自分を奮ふるい立たせる。

### ② 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。ただし、字数制限のある設問については、句読点などの記号も字数にふくめます。

日本人が桜の開花や紅葉に寄せる情熱は、世界的に見てもユニークである。多くの外国人は、まず桜の開花情報がニュースで配信されることに驚きを隠せない。さらに、前日からの場所取りだ。ピクニックの習慣があるわけでもないのに、桜や紅葉といった「季節もの」、一瞬で終わってしまうものとなると、とたんに全力で愛でる（注1）スタンスへと転じる。客観的に見てみれば、① そうした日本人独自の四季との向き合い方に外国人が疑問を抱くのも無理はない。

桜や紅葉のついでにというと、「桜がパッと咲いた」「葉がはらはらと舞う」といった（注2）オノマトペが日本語で豊富なことも、（注3）クオリアと無関係ではないだろう。「パツ」「はらはら」「サクサク」「しくしく」「どよん」「ドボン」「まったり」「ブーン」「ゴゴゴゴ」。日本語で現存するオノマトペの数は、じつに二〇〇〇語以上にのぼるといわれる。言語学者である窪菌春夫さんは、『オノマトペの謎』（岩波科学ライブラリー）のなかで「イギリス人は（注4）動詞で泣く、日本人は（注5）副詞で泣く」という言葉を引用している。泣き方の違いを、英語では cry（泣く）、weep（涙を流す）、sob（すすり泣く）と動詞で表すのに対し、日本語では「ワーワー泣く」「めそめそ泣く」「しくしく泣く」といった具合に、副詞としてのオノマトペで表す場合が多いという。

日本語におけるオノマトペには、そのまま物の名称になっているものも無数に見かける。赤ちゃんをあやすときの「ガラガラ」、アイスの人気商品は「ガリガリ君」、自然界では「ミンミンゼミ」「ガラガラヘビ」「ペンペン草」、トレンドの「ゆるふわヘア」や「もちもち食感」。それから世界中でブームを巻き起こしたポケモンの「ピカチュウ」もまた、稲妻を表す「ピカッ」と、ネズミの鳴き声「チュウ」を組み合わせたオノマトペ由来の名前だ。多くのポケモンが外国語版に名前を変換されるなか、ピカチュウだけは世界中どこへ行っても「ピカチュウ」だそうで、たしかに② 外国語に翻訳するのはどう頑張っても難しそうである。

このように、日本語におけるオノマトペは、ぼくたちの生活に密着し、もはやなくては会話が成り立たないほどに言語とし

て定着している。そしてその数は極めて多く、それどころか「ゆるふわ」のような新しいオノマトペも着実に増えている。窪菌さんは同書で、最近できたオノマトペの「モフモフ」に着目している。これまでは柔らかい物を「フワフワ」で表現するのが一般的だったが、新しく使われるようになった「モフモフ」という言葉を初めて耳にしたとき、「フワフワより暖かい感じになるのかな」と、その言葉の意味するところを直感的に理解できたそうだ。『フワ』ではなく『モフ』だけというだけで、これほどに微細な違いを感じ、共有できる点は、ほんとうに驚くべきことだ。日本人独自の繊細なクオリアが、<sup>③</sup> ころにも表れている。

それでは、世界のオノマトペ事情はどうかというと、じつはオノマトペを多用している言語は各地に点在している。もっともオノマトペはその研究自体が途上にあり、どの国にどれだけのオノマトペがあるかは「諸説あり」の段階であることを最初にお断りしておくべきだろう。そのうえで、現在把握されている世界のオノマトペを見ると、圧倒的にインドとアフリカの少数民族の言語に多い。たとえば、南インドや東南アジアの一部で話されているタミル語や、西アフリカのヨルバ語、ナイジェリア南東部などのイグボ語のオノマトペの数は「無制限」、南アフリカ共和国のズールー語は三〇〇〇語以上あることがわかっている。

こうした調査結果から、<sup>④</sup> オノマトペが多い国は「未開・未発展の地域に多い」という仮説が存在する。実際に、英語や中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語などの「都市言語」のオノマトペは、それほど発達していない。さらにそうした都市言語では、わかりやすく簡単なオノマトペは「子どもが使うもの」という認識がある。また、近代化が目覚ましい南アフリカ共和国のズールー語はオノマトペが衰退しているという報告もあり、言語学者の窪菌さんの見解をもつてしても、「オノマトペ」未開の地の言葉」説は「まんざら空論とも退けられない」というのが妥当なところだそう。

しかし、ここで大きな問題となるのが日本語と韓国語のオノマトペの多さである。両国とも紛れもない先進国であるにもかかわらず、日本語のオノマトペは二〇〇〇語以上、韓国語に至っては五〇〇〇語以上と、その数の多さは群を抜いている。この理由に関してははまだ検証中とのことだが、ぼくとしては、いくつかある仮説のうちの一つである「オノマトペは（注6）ア

ニミズム文化に多い」というものを支持したい。古来、日本に根づくアニミズム文化についてはすでに触れたとおりだが、儒教や仏教が伝わる前の古代朝鮮でもまた、(注7) シャーマニズムやアニミズムがさかんだったといわれている。そうした土壌で、風の音、星の輝き、花の散りざまといった自然界の「声」に対するオノマトペが生まれるのは、言語の成り立ちとしてはとても自然なかたちであるような気がするのだ。

一方で、日本語と韓国語のオノマトペにも大きな違いがある。それは、食にまつわるオノマトペの数だ。具体的にいくつあるかは定かではないが、食感を表す日本語のオノマトペは異常なほど多く、美食大国とされるフランスや中国はもちろん、オノマトペの総数が倍以上ある韓国とも比べものにならないほどだ。韓国に食のオノマトペが少ない理由の一つには、食文化の性質が挙げられるだろう。ビビンバや鍋料理など、さまざまな食材を混ぜて味わう文化が発達した韓国では、一つひとつの食材を楽しむことに重きを置く日本に比べて味の表現が少ないのもうなずける。

もつとも、**⑤** 韓国が少ないというよりは、日本が多すぎるという言い方のほうが適切だろう。テレビの(注8) 食レポは「まったりしてますね〜」「サクサク感がたまらない!」といった具合にほぼオノマトペで成り立つようなコメントの(注9) オンパレードで、その感覚の共有が困難な外国人にとってはおおよそ理解できないような内容になっている。

食にまつわるオノマトペの豊富さは、そのまま食文化の多彩さにつながるという差し支えない。ふわとろのオムライス、キンキンに冷えたビール、こつてり味のラーメン。柔らかくて適度な粘度のあるもの、そんな言葉にできない「質感」を「ふわとろ」などのオノマトペで表現することは、ある意味ではクオリアの言語化といえるかもしれない。日本という先進国の、日本語という言語がしっかりと確立されている環境で、並行してオノマトペが定着・増加しているという状況を鑑みたく、クオリア大国の一端を垣間見ることができる。

また、**★**「**★**」としてオノマトペを切り捨ててきた先進国と比べたときに、日本の柔軟性、あるいはある種の合理性を感じずにはいられない。かつて「女性や庶民が使うもの」に限定されていた平仮名も、その流麗さと手軽さという観点から公式な文字として受け入れられた。オノマトペも日本では子どもから大人までが親しみ、日常的に使われている。それ

に、日本の漫画まんがの豊かな表現力は、独特の発展を遂とげたオノマトペがその一端を担になっていることは間違いない。ぼくたちはオノマトペで「言葉にできないあの感じ」を共有することで、コミュニケーションをより深く、楽しく、そしてスムーズに行なっているのだ。

(茂木健一郎『なぜ日本の当たり前前に世界は熱狂するのか』より)

(注1) スタンス⇨姿勢。構え。

(注2) オノマトペ⇨物の音や状態などを言語の音でまねて表した言葉。

(注3) クオリア⇨脳科学の分野でいう、物の材質などに対する、人間の感じ方。

(注4) 動詞⇨「歩く」「読む」など主として動作や作用を表す言葉。

(注5) 副詞⇨「ゆつくり」「とても」など主として物事の様子を表す言葉。「はらはら」「しくしく」も副詞である。

(注6) アニミズム⇨自然界のすべての物に精霊せいれいなどの存在を認める信仰しんこう。

(注7) シャーマニズム⇨精霊などが人にとりついてお告げなどをすると考える信仰。

(注8) 食レポ⇨レポはレポートの略。レポーターが料理をその場で食べ、味などについて感想を述べること。

(注9) オンパレード⇨事柄ことばや物がずらりと並ぶこと。

問1 ——線部①「そうした日本人独自の四季との向き合い方」とありますが、これはどのような「向き合い方」ですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 四季のそれぞれの美しさを、ほんの一瞬<sup>いつしゅん</sup>で終わらせることなく、いつまでも味わえるようにしようとする向き合い方。  
イ. 四季のそれぞれの美しさを、それがはかなく移ろいやすいものであるがゆえに、全力で味わおうとする向き合い方。  
ウ. 四季のそれぞれの美しさを、日本人だけしか知らないのではもったいないと考え、外国人にも味わえるものになろうとする向き合い方。

エ. 四季のそれぞれの美しさを、それが世界的にユニークなものであるがゆえに、そっと隠<sup>かく</sup>しておこうとする向き合い方。

問2 ——線部②「外国語に翻訳<sup>ほんやく</sup>するのはどう頑張<sup>がんば</sup>っても難しそうである」とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 日本では多くのオノマトペが生まれては消えるので、「ピカチュウ」という言葉自体にも深い意味はないから。  
イ. 「ピカチュウ」に見られる稲妻<sup>いなずま</sup>とネズミの組み合わせは、日本人独自の感性からしか生まれないものであるから。  
ウ. 「ピカチュウ」という語はそのまま名前として定着<sup>ちやく</sup>していて、別の言葉に置き換<sup>か</sup>えてしまったら受け入れられないから。  
エ. 「ピカチュウ」という語は日本語のオノマトペによる語であり、日本人独自の感性から生まれた語であるから。

問3 ——線部③「こうしたところ」とありますが、これはどのようなところですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. オノマトペが日常生活に密着しており、会話を成り立たせるためになくならないものになっているところ。
- イ. 柔らかさと暖かさをオノマトペで組み合わせることで、新しい感覚を生み出すことができるところ。
- ウ. オノマトペの少しの変化で、物に対する感じ方のわずかな違いを日本人同士で共感できてしまうところ。
- エ. 一つのオノマトペを多くの人で共有するうちに、その語を少し変化させた新しいオノマトペを生み出せるところ。

問4 ——線部④「オノマトペが多い国は『未開・未発展の地域に多い』という仮説」とありますが、筆者はこの仮説を正しくと考えていますか、それとも誤っていると考えていますか。どちらかを選び、解答らんに○をつけなさい。また、そのように筆者が考えている理由を三十五字以内で説明しなさい。

問5 ―線部⑤「韓国が少ないというよりは、日本が多すぎる」とありますが、韓国と比べて日本に食にまつわるオノマトペが多いのはなぜですか。その理由を説明した次の文の空らん(1)・(2)を本文中の語句でうめて完成させなさい。ただし、(1)は十五字以内、(2)は二十字以内で本文中からぬき出すこととします。

韓国では【 (1) 】【文化が発達したが、日本では【 (2) 】【文化が発達したから。

問6 文中の空らん 

★
---

 に入れるのに最も適切な語句を、本文中から八字でぬき出して答えなさい。

③ 次の文章の主人公の佐古葉子は、中学二年生です。クラスでは、今、体育祭の応援旗の係を決める話し合いをしています。担任は小沢先生、あだ名は「ザワ先」という体育教師です。クラスで唯一の美術部員、瀬川しおりは、小学四年生の春に主人公と親しくなりましたが、中学一年時は別のクラスでした。

この文章を読んで後の設問に答えなさい。

——私、このままでいいのかな。しおりからも、絵を描くことから離れたままで。

考えてみれば、そういう迷いはいつだって心の奥にあった気がする。だけどずっと、気づかないふりをしていた。気づいてしまったら、もう「日向」にはいられなくなる。また、みじめな日々に戻りしてしまう。そんな確信があったから。だけど——。

こみ上げたため息のみこんで、ほおづえをつく。と、その時ザワ先が、「えー、あとは応援旗係だな」と、あごをさすりながら言ったのが耳に入ってきた。

応援旗。

うちの学校の体育祭では全学年、一組から五組までがそれぞれのクラスカラーに分かれて、競い合うことになっている。クラスカラーごとの応援旗を製作するのは、二年生の役割だ。けど他の係と比べて圧倒的に骨の折れる仕事だし、応援旗のときばえも審査対象になるから責任重大つてことで、毎年やりたがる人は少ないらしい。「放課後残んなきゃダメだし最悪だよ」って、何年前か前、中学生だったお姉ちゃんも言っていたっけ。

——たぶん、押しつけ合いになるんだろうなあ……。

なんて思ったそばから、「じゃ、まずは花形の応援旗係から決めるかあ。さっそくだが立候補いないか？」と、ザワ先の声が飛んだ。その一声で、予想どおり教室には、さっと「ゆずり合い」の空気が流れ始める。さっきまでひそひそ飛びかっていたおしゃべりがやみ、かわりに、よそよそしい視線が教室の中を行き来する。だれか手を挙げてくれないかな、早く決まっ

てくれないかな——みんな、まるで他人事ひとことなんだ。私も含めてふく。

と、重たい空気を断ち切るように、さえた声が響いたのは、その時だった。

「あの、立候補じゃなくて、意見なんですけど」

手を挙げてそう言ったのは、学級委員の矢代くんやしよだ。ザワ先が、お、というふうにとちらに目を向ける。

「はい、矢代。どんな意見だ」

「や、思ったんですけど、うちのクラスって、美術部の人いないんですか？ どうせなら、そういうの得意な人が率先そっせんしてやってくれたほうが、クラスのためにもなると思うし」

淡々とした口調で、矢代くんは言う。だけど感情的でないぶん、説得力はある気がした。他の子たちもすっかり納得なつとくしたように、あちこちでうなずき合っている。

「あー、たしかにそうかも」

「だよね。デザインだって、そっちのが絶対センスいいのだからって！」

① あめ玉にありんこが寄ってくみたいなのに、ざわめきが、一方向へ収束していく。ザワ先は、記憶をたぐるみたいに、腕組みうでぐをしてしばらく眉根まゆねにしわを寄せていたけれど、やがて、「美術部はたしか、瀬川だったかな」とひとりごとみたいにつぶやいた。

「だよな？ 瀬川」

ザワ先がしおりに向かって問いかけると、みんなの視線がたちまちそちらに集まった。おずおずとうなずいたしおりの背中は、心なしかいつもより小さく見える。けどどのんきなザワ先は、そんなことにはお構いなしで、「どうだ、瀬川。せつかくだから引き受けてみないか？」と、あっさりとしおりに笑いかけた。

——どうするんだろう、しおり。

私だったら、この空気の中、断るなんてきつとできない。だけど大役を引き受けるのは荷が重たいし、クラス中の視線を一身

に浴びるなんて、想像しただけでも緊張する。まるで自分のことみたいに、心臓がきゅつと縮む。

と、私が思わずスカートの裾をにぎりしめた、その瞬間だった。しおりが② 観念したように、小さく首を縦にふるのが見えたのは。

——あ。

「おお、瀬川！ やってくれるか！」

すかさずザワ先がうれしそうに声を上げ、それを合図に、周りの空気がふつとゆるむ。

「はー、ラッキー……」

「や、でもまだひとり決まっただけじゃん」

あちこちで交わされ始める、ほつとしたようなため息とささやき。それに耳をかたむけながら、けれど私はまだ、なんだかそわそわと落ち着かなかった。なんだろう、のどの奥がつかえたようなこの感じ。さっきまで私だって「他人事」だって思ってたのに、ひとりうつむくしおりを見てたら、いてもたってもいられない気分になったんだ。

——私また、見ないふりしようとしてるんだ。みんなと同じ、自分は無関係だって顔をして。

そんなの、ダメだ。

くちびるをぎゅつと結んでまばたきをすると、さつき見たしおりの（注1）キャンバスが、まぶたの裏にぱつと浮かんだ。淡くてきれいな夕暮れの色。足元を吹き抜けていった、涼やかな風。見えない手のひらが、私の心をそつと押す。

「……あのっ！」

気がつくつと、身体が前のめりになって、自然と右手が拳がった。きよんとした視線がクラス中から矢のように飛んできて、頬がかつと熱くなる。恥ずかしい。逃げたい。やめたほうがいいって分かっている。

だけど、その全部をふりはらい、私は思い切つて口を開く。

そして、言った。

「応援旗係、私、やります」

引つ込み思案は筋金入り。目立つことは苦手だし、面倒なことはのらりくらりと避けてきた。だから手を挙げたのは、私  
がふりしぼった、精一杯の勇氣だったんだ。

とはいえ、だ。

私ひとりが立候補したところで、周りまで便乗する、なんてことは当然だけどころなかつた。結局その後、他の係が着々と決まっていくなかで、応援旗係の枠はちっともうまらず、私としおりふたりきりのまま。さすがにこれじゃ、人手不足は明らかだった。

どうしよう……と、思っていたら、ザワ先も同じことに気づいたらしい。

「おい、応援旗、さすがに瀬川と佐古だけじゃ大変だろう。だれか助っ人してやれよ」

（注2） H Rの終了五分前になって、思い出したようにそんなことを言いだした。それどころか、「そうだなあ……誘導係、いちばん楽だろ。百井、松村、宮永、お前ら三人、応援旗係手伝ってやれ」なんてあっさりと言うものだから、私はぎよつとした。

だって、そんなのって、予想外だ。

宮永——つまり、朱里まで、まさか、同じ係になるなんて。

かくしてH R後。トイレの洗面台の前で、力任せにリップクリームを塗りながら、朱里は④水の止まらない蛇口のごとく、えんえんとぐちを吐き散らしていた。

「あー、もう最悪！ なんなの、あたしが応援旗係って！」

不機嫌丸出しでくちびるをとがらせる朱里を、さつきから菜美とりつちゃんは、「もー、朱里ってば往生際悪いよー」「そうそう、いさぎよくあきらめなつてー。もう決定事項なんだしさあ」と苦笑まじりになだめてる。そのやり取りをしりめに、けれど私はどんよりとした気分で、洗面台の鏡と向かい合っていた。



それは、応援旗のデザインのこと。

「瀬川、美術部だしな。よかったらデザイン画、考えてきてくれないか」

と、HRの終わりに言ったのはザワ先だったけど、それはもう、クラスの総意のようなものだった。私だって、当然のように異論はなかった。他のだれより、きつとしおりがいちばんいいものを描いてきてくれる。そんな確信があったから。

本当は、美術室でキャンバスに描かれたしおりの絵を見た時、少し、ショックだった。

だって小学生のころ、私たちは同じジスタートラインに立っていたんだ。もちろん、まるきり一緒（いっしょ）ってわけじゃないけれど、明らかなレベルのちがいついていうのは、感じなかったように思う。だから、たった一年でこれだけ差がつくなんて、って正直、思った。

だけど、ショックとあせりの中に、すごいな、って思う気持ちもたしかにあった。

あんな絵を描けるようになるまで、どれだけたくさんの絵を描いてきたの？

迷（まよ）ったり、逃げ（に）げたくなくなったりしたことは、なかったの？

しおりの夢はまだ、昔のまま変わってない？

聞きたいことがたくさん浮かんで、だけどそれを伝えることはできなくて、もどかしい。私には、勇気がない。自分で自分が嫌（いや）になる。

だけど、だからこそ、これだけはって決めたんだ。

⑦ しおりが考えてきたデザインを、私も一生懸命描（か）こうって。

それだけが、臆病（おくびょう）でずるい私にもできる、唯一（ゆい）のことだったから。

みずのるみ  
（水野瑠見『十四歳日和』より）

(注1) キャンバスⅡ油絵をかく布。

(注2) H RⅡ 中学校・高等学校に設けられる学級活動の時間。

(注3) 陰キャⅡ陰気なキャラクター(性格)の人。

(注4) ヒンシユク買うⅡ「ヒンシユクを買う」。自分の行動が原因で、人から嫌がられること。

問1 — 線部① 「あめ玉にありんこが寄ってくみたいに、ざわめきが一方向へ収束していく」とありますが、これはどのような様子を表していますか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 矢代くんの意見に、クラスのみんながとまどいながらも反対しようとしている様子。
- イ. 矢代くんの意見に、クラスのみんなが思い思いの意見をいっせいに述べている様子。
- ウ. 矢代くんの意見に、クラスのみんなが賛同する方向にまとまっていく様子。
- エ. 矢代くんの意見に、クラスのみんなが遠慮して発言を控えるようにしていく様子。

問2 — 線部②「観念した」・③「筋金入り」の意味として最も適切なものを、後のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、

記号で答えなさい。

②「観念した」

ア. 勇気を出した

イ. 納得した

ウ. あきらめた

エ. がっかりした

③「筋金入り」

ア. ほかの人とはちがって変わっている

イ. 少しぐらいのことでは変わらない

ウ. 他人には理解してもらえない

エ. 周囲によく知られている

問3 — 線④「水の止まらない蛇口のごとく」とありますが、これはどのような様子をたとえていますか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. いろいろな感情が次々とわいてきて何から言っているのかわからない様子。
- イ. 感情がおさえられず言いたいことがとめどなく出てくる様子。
- ウ. 何に対して不満を訴えているのかまったくわからない様子。
- エ. 自分の意見ばかり主張して周囲の意見には耳を貸さない様子。

問4 — 線部⑤「どんな顔して朱里の前で、しおりに話しかければいい? — いったいそのこと、言っちゃおうかな。朱里に、『しおりと友達なんだ』って」とありますが、ここから私としおりが友達であることを朱里に知られることは、私にとっ  
て都合の悪いことであることが読み取れます。なぜ都合が悪いのですか。その理由を次の二つの条件にしたがって、三十  
字以上四十字以内で説明しなさい。ただし、句読点などの記号も字数にふくめます。

条件

1. 解答用紙に従い、「私がしおりと友達であることを朱里に知られると、」に続けて書くこと。
2. 「日向」・「日陰」の二語を必ず用いること。

問5 — 線部⑥「本当のこと」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 本当は応援旗係をやりたいののに、引っ込み思案な性格のためになかなかそれを言い出せずにいたこと。
- イ. 一人だけ応援旗係になってしまったしおりがかわいそうで、友達としては見捨てることができなかつたこと。
- ウ. 実は絵を描くことが大好きなので、応援旗係になってしおりと絵の腕を競い合いたいと思っていること。
- エ. 応援旗係を誰がやるかなんて他人事だと思っていた自分を、臆病でずるいやつだと感じていること。

問6 —線部⑦「しおりが考えてきたデザインを、私も一生懸命描こうって」とありますが、私があるように思ったのはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア・美術室で見たしおりの絵から、何事に対しても引込み思案な自分を励まそうとするメッセージを感じ取ったため、しおりのデザインを一生懸命描かないことは、自分を友達として大切にしてくれているしおりへの裏切りになると思ったから。

イ・「日陰」の人間に分類されることを避けるために絵を描くことから離れていた間に、しおりとの間に大きく差が開いてしまったことがくやくしく、せめてしおりのデザインを描くことで少しでもその差をうめることができるのではないかと考えたから。

ウ・しおりのデザインを一生懸命描かなかつたら、応援旗係の中でも仲間はずれにされ、さらには担任であるザワ先やクラスメイト全員からの信頼を失い、これまで以上に学校での生活が息苦しいものになってしまうかもしれないと思ったから。

エ・しおりが絵についてどんなことを思っていたのか、直接口に出して聞く勇氣はないが、せめて、絵を描くことに向き合い続けたしおりのデザインを一生懸命描くことで、逃げてばかりいた自分がしおりと絵ともう一度向き合おうと思ったから。

( お わ り )

